



福井県初の特定ケア看護師の活動

公立丹南病院 特定ケア看護師 木下誠一

丹南病院の医療

私が勤務する公立丹南病院は、福井県嶺北に位置する鯖江市にあります。人口18万人を有する丹南地域の公的中核病院であり、病院の機能と使命は、2次救急の拠点病院、災害時の拠点病院、さらに、へき地医療支援の拠点病院として重要な役割を担っています。また、地域に密着し、医療の継続性が重要との観点から、通所リハビリテーション、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などの在宅サービス部門の充実にも取り組んでいます。さらに、生活習慣病健診を中心とした予防医学にも力を入れ、病院の基本理念である、保健、医療、福祉の包括的医療を実践しています。

特定ケア看護師になるまでの経緯

私は、もともと大学病院の透析室で、看護師として勤務しておりました。4年前に丹南病院に就職し、配属された透析室で医師不足の現状を目の当たりにしました。常勤の腎臓内科の医師は居らず、内科と泌尿器科の医師が外来診療や救急外来と兼務しながら、透析室を担当するという状況です。常に医師が居る環境で勤務していた自分にとっては、とても不安な環境でした。



ある日、透析患者さんが体調不良を訴え、血圧が保てず透析が継続困難な状態になってしまいました。担当医師に連絡しましたが、救急車対応中で行けない。泌尿器科医師や他の内科医師も診察中に行けない。その状況下で、患者さんの側でケアをしながら医師を待つことしかできない自分の無力さに、悔しい思いをしました。

そういった現状を何とかできないかと悶々とした日々を過ごしている時に、JADECOM-NDC研修を知り、迷わずNDC3期生として参加しました。

福井県で初の特定ケア看護師であり、特定行為研修修了者も診療看護師も居ない環境であったため、筑井菜々子診療看護師さんに来ていただき、当院で2ヵ月間ご指導いただきました。同時に各病棟、外来、コメディカルスタッフに対し、特定ケア看護師についてのプレゼンテーションを行い、周知活動にも取り組みました。

JADECOM-NDC研修を修了後は、自施設で卒後研修として各科をローテートし、医師指導のもと患者さんを一緒に担当しながら、臨床推論や入院から退院までの管理などを学ばせていただきました。各科ローテートごとに、学んだことについて勉強会を開き、看護師とシェアすることで、看護師全体のスキルアップに、僅かながらも貢献できたかなと思っています。また、訪問看護にも同行させていただき、在宅医療における特定ケア看護師の必要性を学びました。

特定ケア看護師としての活動

卒後研修を終え、今年4月から特定ケア看護



師として活動を始めました。COVID-19の感染拡大に伴い、4月はCOVID-19対策チームに所属し、発熱外来や病棟勤務を行っておりました。

5月からは、総合診療科の医師と共に内科病棟と救急外来で活動させていただいております。朝の回診に間に合うように、情報収集や血液データの確認を行い、患者さんのもとに足を運んで状態を確認します。回診時、医師に状態をプレゼンし、アドバイスを受けながら補液の調整や検査オーダー、カルテ記入などを行います。また、他科の医師からのPICC挿入や気管カニューレの交換などの依頼にも、対応させていただいております。救急外来では、医師と共にファーストタッチに関わらせてもらい、エコーの実施や動脈血採血を行うこともあります。

しかし、特定ケア看護師の1番の役割は、医師と看護師の隙間を埋めることだと考えております。患者さんに対する懸念へ早期に介入し、身体所見などから病態を把握し医師につなげる。タイムリーに介入し、悪化を防ぐことで患者さんにとってのメリットにもつながります。そのためには、看護師から相談しやすい環境を整えることも活動の一つと考えています。日々コミュニケーションをとり、採血ができない・ルートがとれないなどの依頼にもフットワーク軽く対応して、相談の敷居を低く保つように心

掛けております。

今後の課題

初の特定ケア看護師であり、まだ周囲の認知度にバラツキがあるのが現状です。そのため、活動を通して多くの患者さんやスタッフに正しく知っていただくことが課題の一つと考えております。研修期間を含め1年が経過した今でも、「看護師の業務ではない」「特定行為は看護なのか」「ミニドクター」などという声を耳にすることがあります。看護師の業務は、療養上のお世話と診療の補助であり、特定ケア看護師の業務もその範囲内です。つまり、全て「看護」です。理解していただくには、活動を継続することが必要で、地道に実績を積んでいこうと思っています。

もう一つの課題は、特定ケア看護師の人員を増やすことです。今後間違いなく、ニーズは高まっていきます。集中治療領域、一般病棟、在宅医療など活躍の場が広がれば、1人ではまず対応できないので、1人/年ずつ育成していくことを目標にしています。今以上に、地域に密着した医療の継続が図れるよう頑張っていきたいと思います。そしていつか、特定ケア看護師の存在が全ての人の安心材料になればと思っています。